

くまもと未来 所属議員

## 個別政策集

5年以内の予算化、10年後の実現を目指します。

このまちの未来に向けた、議員一人一人の提言を集めてみました。

「これならちょっと頑張れば実現できるかも」  
「実現のため、自分も役に立てるのでは」「応援してみたいな」  
「自分たちの町を自分たちで変えていける」

・・・市民の皆さんが、そんな「手ごたえ」や「自信」を感じて頂けるような、市民目線の生活密着型の政策を目指したつもりです。

どれか一つでも関心のもてるものがあったら、迷うことなく提案議員にご一報ください。

あなたのご意見、あなたのご参加が、私たちの政策案を鍛えなおし、実現へと後押しします。

### ➤ 5年以内の実現着手

2015年までに正規の政治過程に載せることが目標です。

具体的には、市による「予算化」ないしは「調査予算化」、民間プロジェクトの場合は、推進母体による試験イベントの実施が里程標（マイル・ストーン）です。\*

### ➤ 財源・工程表の策定を市民協働で

各政策は中核的アイデアと大まかな展望のみを提示しています。

政策の詳細（財源・工程表）は、市民の皆さんとの議論を通じて策定していきます。全行程に市民の参画を求めることで、民意を反映した「生きた政策」にしたいからです。

### ➤ 進捗管理

漫然と進めるのではなく、評価シートに基づいて進捗状況を公表し、市民の皆さんから厳しく検証して頂く場を設けます。\*

2012年に、それまでの活動を全面的に再検証し、政策の詳細（工程表・予算・推進体制）を確定させます。2年後の政令市移行による市政刷新に照準をあわせて詳細を策定し、政策の実効性を高めます。

\*別添の「評価シート」をご参照ください。

一つの情景を思い浮かべてください。

それは、わたしたちの政策がすべて実現したあかつきの、ある家族の風景です。

思い浮かべてください。あなたは今、35歳。

3才年上の夫と7年前に結婚し、6歳の女の子と4歳の男の子がいます。

アパート住まいですが、40歳を目標にマイホームを建て、夫の両親との同居も考えています。

さて10年後。

2020年、あなたは45才。

あなたの生活は、どうなっているのでしょうか？・・・

## 10年後の「あなた」の物語

娘が朝食用のトマトをもいできた。

西部地区に引っ越して7年。何しろ調整区域だから土地が格安。予定より2年も早く新築できた。しかも畑つき！

家族に無農薬の野菜を食べさせられるし、生ゴミも堆肥化すればゴミ袋が節約できるし、近所の農家から規格外の野菜までもらえて、こんなに幸せでいいのかしらん？

学校も生徒数が少ないので、30人学級。きめ細かい指導を受けられて大満足。

お隣さんは、保育園の空きがあるおかげで、思い切って3人目を産んだそうだ。

\*1「西部コミュニティバス」白河部貞志

でも、どこの学校でも副教材やら部費やらの負担が同じになったのは、ホント助かる。

お金があるくせに給食費を払わない不届き者もいなくなったし、どの学校が荒れてるかなんて主婦仲間で情報交換したり、引っ越し先の学校情報を内偵までしてた昔が嘘みたい。

\*2「くまもと“子育て・教育”基本条例」大石浩文

先週の授業参観では、息子が夏休みの共同研究を発表していた。

井芹川で蛍やタガメの観察をやったらしい。ここ数年虫が増えたのは、上流の水質改善で、川全体の透明度がました結果だとか。ほんとに自然の復元力はすごい！

\*3「井芹川による環境教育」田尻清輝

息子が環境オタクになったのは、学校にとりつけられた太陽光パネルがキッカケだ。

市民有志がお金を出し合うファンドという仕組みで設置されたそうで、発電量の電光掲示を見るのがすごく面白いらしい。

大型台風で停電したときも、避難所の学校だけは電気が通っていて、とても安心だった。

\*4「eco市民ファンド」田中敦朗

おじいちゃんは、初めのうち、ご近所にとけこめるか心配だったけど、グラウンドゴルフ友達ができてからは、とってもいい感じ。足腰も丈夫になったし。

それにしても、中学生の長男とおじいちゃんと同じスポーツクラブに入っているって、なんだか不思議。

\*5「元気老人倍増計画」田中誠一

おばあちゃんも負けてない。何しろ近所の公園の清掃員だ。

公園を責任もって管理するかわり、地域通貨をもらえるので、それでパーマをかけてる。「自分で稼げるけん、子供の世話にゃならん。」といばってる。

\*6「校区自治協議会による公共施設管理」藤山英美

夫の同僚は、東部に住んでてパークアンドライドで通勤してくるらしい。

通勤の渋滞が大嫌いな夫は、あっちに引っ越せばよかったって悔んでたけど、でももうすぐこのあたりではじまるらしい。

\*7「戸島埋立地バスターミナル構想」重村和征

長女は最近、海外のメル友とアニメ話で盛り上がってる。なんでも来年には熊本に来るんだとか。わざわざヨーロッパから？

何でって聞いたら、熊本城の歴史コスプレ大会は世界的に有名なんだそうで、「知らないの？」って馬鹿にされた。一種の「メッカ」なんだって、へええ熊本がねえ～。

\*8「熊本城国際コスプレ大会」田尻善裕

ほんと、お金なんかなくなたって、アイデア次第でどんなことでもできるんだよね。

木造天守閣の再建が決定したらしいけど、財源に「お城宝くじ」を使うというアイデアだって、元をただせば「市民の知恵バトル：ドリームコンテスト」が出どころなもの。

あのコンテストのおかげで、だいぶ行政のムダもなくなった気がする。お役人も、生ぬるーい提案ばかりしてた代理店やコンサルタントも、見習ってほしいな。素人に負けてどーするの。プロ根性だして頑張っしてほしいな。

\*9「くまもとドリームコンテスト」高島和男

そういう意味では、あまりアイデアを出せない私でも、納税のときだけは意見が言えるようになって、だいぶストレスがなくなった。市税の使い道を選べるようになったからだ。

私としては、娘が安心して子どもを産んで、私が楽しく孫と遊べるような、明るいまちになってほしい、それが一番。だから、教育かな、福祉かな、それとも環境かな、と迷ってしまうのだけれど、こうやって迷うのも、市政参加の第一歩なんだと市のコマーシャルで言った。まったくその通りだと思う。

\*10「目的指定納税制度」下川寛